
ep.1
異世界で第三王子に計画的に娶られました
マクガイア王国の異世界転移
志波ひより
Hiyori Shiba
原作／直江あき
Aki Naoé




んっ
んん…
っ
ぬるっ…


あ
どうして私
はぁ…
んっ
俺のキス
気に入ったんだね
こんなことに
なったんだっけ…!?
もっと声
出させて
あげるよ
んんっ

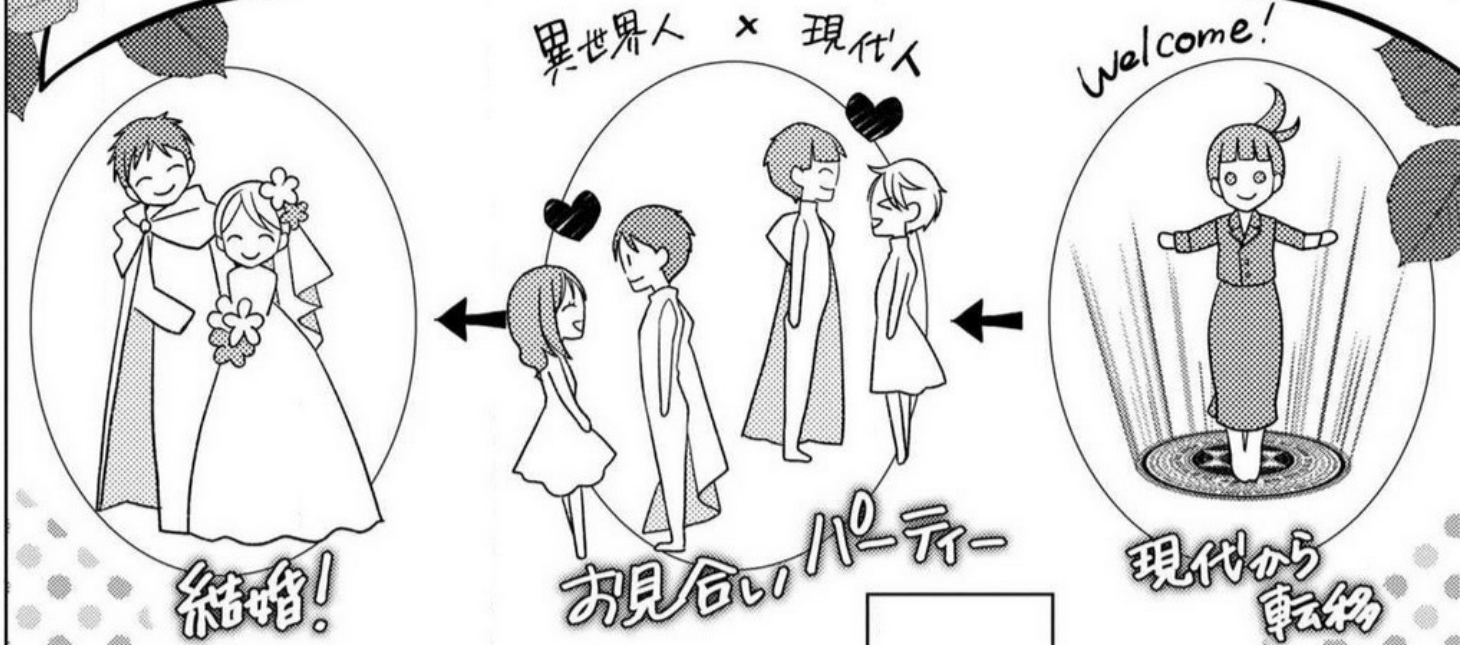

真
今度くる資料のリストは？
できています
あとで机の上に置いておきますね
真ほどここの仕事を把握してる人はいないよ
本当に仕事熱心だ
結婚もせず
この国に残るくらいだもんな
あっはっは
はっは
……
ここはマクガイア王国


私が住んでいた日本からすると
『異世界』と呼ばれるところだ
これから他国との交流会なので失礼しますね
いってらっしゃいまたねー
この国では異世界からの血を交ぜることで
魔法を使える血筋を守っている
らしい

初心者でも安心

How to 異世界転移生活

in マクガイア



これが
一般的な
転移者の
生活

でも私の
場合は……





——…と

仕事にのめり込み
すぎて恋の相手を
選びそこねてしまった

さらに


カップリング不成立者は基本現代へ戻るのだが
ハイッ!!
きゃ
待ちなさい君の帰還は中止だ
え
君はこの世界に想いがありすぎる…
え
現在は独身のまま文官として就職している
でも後悔はない
その後もパーティーに参加したけどみんなお友達で終わってしまった
恋人っていうより友人だよね
わかる


国を挙げての
新興事業
こんなに
ワクワクする
ことってないもの
いいタイミングで
転移したよね
ラッキー
だったな


あ
ここだ


コンコン
失礼します
読んでおけって
言われた
資料ってこれかな
ん…？


これ…
日本語!?
久しぶりに見た…
チート能力で
言葉も文字も
この世界のものを
使えてたから…
マネジメント
リーダーの
…この筆跡って
第三王子
殿下の…!?
細かい国政の
問題点から
解決法まで
よく
まとまってる
あ
私の名前
まで……
上坂真
日本人

間違いない…!!
文官になってすぐ
王族の筆跡は
覚えさせられたし





今日の交流会…
元々は王太子殿下が
参加する予定
だったけど急遽
第三王子に代わった
のよね…
でもこの資料は
一日二日で
用意されたものじゃない
前々から国政を見て
考え抜かれてる
つまり…
これって

最初から
第三王子が
来るつもり
だった……!?


あーあ
間に合わなかったか
読んじゃったんだね
第三王子
ライト殿下…!!


はっ
初めまして
第三王子殿下
財務関連の
部署に在席
しております
上坂真と
申します
ああ
机上の資料を
読んでおくようにと
申しつかって
参りました
学者殿は遅れることに
なったんだ 連絡が
行き違ったようだね
え
読んでしまった
ものは仕方ない
その資料
なにか気になる
ところはあった？
思った
ところを
言ってよ


え…
忌憚のない
意見を頼むよ
敬語も
なしで
それは
ちょっと
…！
意見…と
申しますか
質問をしても？
どうぞ
次はどんな方を
転移させる予定
ですか？
まだ決めてないよ
貴女には希望が
あるの？
はい
現場の法律に
強い人がほしいです
税務を立ち上げるのに
法整備に穴を
あけたくないので
……
なるほど
今の仕事
好きなんだね


……
宝石のような黒い瞳……
この世界の美形ってすごい
光ってる気がする……
役得
役得


はっ!
そうだった
くす
はい…
なにせ
のめり込み過ぎて
帰途の儀式で弾かれ
ちゃいましたから
貴女は結婚を
しないで仕事を
選んだ人だったね
イイね





異世界に
きて初めて
言語が
理解できなかった


あの…
聞き間違えた
ようですので
申し訳
ありませんが…
もう一度…
婚約しようか
僕と
は？
何いってんの？
不敬。


あ
って言葉はよぎったけどつい…口から出ちゃった
君は俺の理想だ
いやいや…今の会話だけで理想とか意味わかんないですし……
君はさっき聞いたでしょうどんな人を次は呼ぶのかって
だから俺の妻になってよ
？はい
殿下はあまり実務に携わらないと伺っていたので意外でした


私も見込まれて
呼ばれていると
わかって
嬉しかったです
あ
あと
日本語で
書かれていたのも
殿下ですよね
私…
懐かしくて
……
それ全部
最高機密
なんだ
親と兄弟しか
しらない


秘密を
知られたから
には――…
ね
俺は新しい
ものを作るのが
好きなんだ
それにはそれを
支える
良き理解者や
支援者が
必要でね
それが妻なら
最高でしょう？
妻には
異世界人をと
決めていたし


ごめんね？
でも俺の直感は
はずれないから
大丈夫
愛し合おうね？
バカで誠実で
愛されキャラ…？
いやいやいや…
とんでもない
腹黒なのでは…!?
上坂さんは
付き合ってる人
いないって
聞いてるけど
俺のこと
嫌い？
えっ


そうですね…
じー
黒い瞳に
金の髪
整った顔立ちに
スタイルのいい
長身――……


瞳に母国の
面影がある
ので……
好きな
ほうです…
正直者
見た目は好み
ってこと？
それはよかった
じゃあどんな
男が理想なの？


私より
頭のいい人
でしょうか
仕事ができる
人とか…


じゃあ
お互い理想に
ぴったりじゃない！
え
特許権利課を
作ったのも
民間と国の
研究機関を
繋いだのも
俺なんだ
あの…
どの辺が
不敬。
資料を見る限り
噂よりずっと
できる人かも
しれないけど…
君がいる
税務担当部署
作ったの
俺


どれも近年新設された革新的な事業…！
俺かなり仕事できると思うよ
今の全部ですか…？
そんな話――…
ひぇっ
うん 誰も知らないはずだよ これも最高機密だからああまた増えちゃったね
そんな！ 私黙ってます
誰にも言いません


うん
信じて
あげたいよ
でもリスク
管理は大切だ
俺は何かを
頑張る人を
尊敬する
仕事は
できるほう
だけど…
仕事に打ち込む
君は素晴らしいと
思うよ
恋愛は
ポンコツだから…
ちょっと強気に
リードされると
弱いんだよ〜っ


しかもそれが
俺の手掛けた
仕事で
それを発展させて
くれてるなんて
好きにならない
理由はないよね
っ
君がこちらに
来たとき
ちょうど仕事で
余裕がなくてね
君との出会いは
断念していた
でも 君が誰とも
結婚せず さらに
こちらの世界に
残ってくれていて


こうして偶然にもふたりきりになれた…
今日の出会いのためとしか思えない
こんなの…
王子様じゃん…っ
君の仕事上の根回しやプレゼンは素晴らしいと聞いている
今日も俺が話を聞きたくて機会を用意した
あっ
そこまでわかっちゃったんだ
やっぱり!!


察しもいいね
ますます
気に入った
しま……っ
あ…
っ
ん


おさえられて…
逃げられない
ん
ん
んっ
かわいいね
っ


頭がぼうっとしていく…
キスってこんなに気持ちよかったっけ…？
苦しいのにやめられなくて
はっ


可愛い声
でてきたね
キス
好きなんだ？
はあ
ライト
王子…
もっと
しようか


これから
私…
あ
どうなっちゃうの
――…!?
●つづく●


ep.2
異世界で第三王子に計画的に娶られました
マクガイア王国の異世界転移
志波ひより
Hiyori Shiba
原作／直江あき
Aki Naoe




マクガイア王国
第三王子
ライト・マクガイア
彼について
知っている
こととといえば
のんき
もとい
穏やか
顔立ちは優しげで
スタイルもよく
人柄に惹かれた
若者が彼を支える
ために集まっている



家族仲も
良好である

王太子となった
兄を支えることに
尽力していて
――……

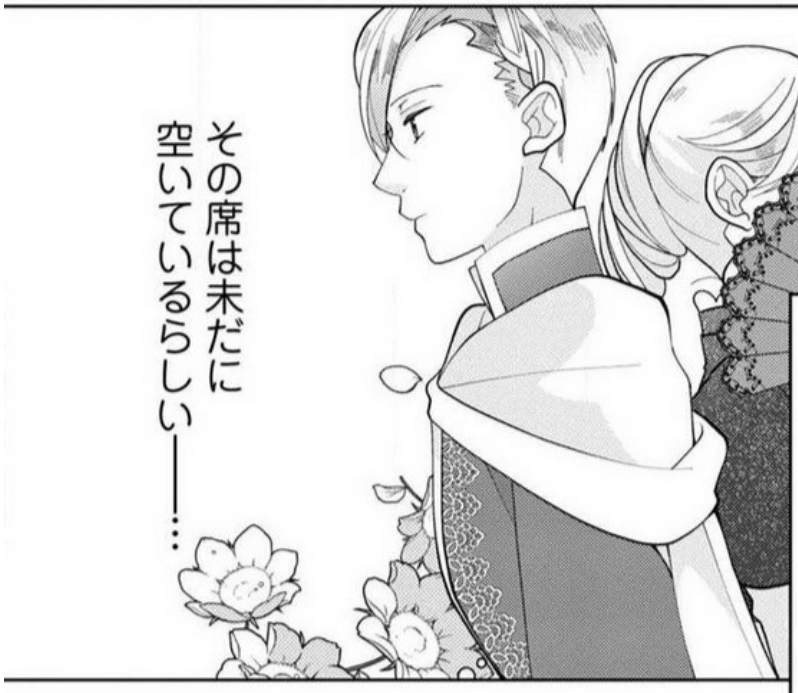


婚約者問題

王子にひとつ
問題があると
するならそれは

小さい頃に
異世界人と
交流したことが
きっかけで

「妃は異世界人と
決めている」と
公言



その席は未だに
空いているらしい――……


……そんな彼に
いま私は……
んっ
迫られてるんだけど……!?
んっ


あっ
そんなに
甘い声出すんだ？
っ
抵抗
できない
あっ
はっ
！
手が…


ひっ
そこは…
あっ
キスしながら
そんなこと
されると…
体が
火照って…
きちゃう…


力…
入らな…
あっ
ちゅっ
ちゅっ
あ
ちゅっ
ちゅ
えっ
ふるん
胸が…
ダメです…っ
痕
つけないで…っ
ちゅ


なに？
上坂さん
痕つけられたら
誰かに怒られるの？
妬けるな
声が…
冷たい…
俺 独占欲強いから
恋人と別れさせちゃう
けど許して？
あっ
恋人はいないし
怒ってるのは
殿下だし…
一体なんなの
――…!?


あっ
や
だめっ
あっ
あ
すごいな
そんなに腰
揺らして
っ
期待してる？
!!


してない…っ
してません…っ
それに彼氏も
いないから…っ
あん
本当に？
止めたくて
嘘ついてない？
わかりにくいから
顔見ながら
しようか？
っ
嘘なんて…っ
あっ…
恋人は
いるの？
いません…っ
じゃあ
腰が揺れてた
のは？
あっ
知らない…


質問の度に
こんなコトされてたら
まるで拷問よ
温厚な人って
噂じゃなかったの!?
じゃあ俺に
キスされて
気持ちよく
なっちゃった?
んあっ
貴女は
有能だけど
素直だね
あ
そんな反応
見せられると
好きになるし
煽られるよ
力抜けちゃった?
よかった まだ
俺の腕が落ちて
なくて
王族は王家の
存続と繁栄のために
夜のことも
しっかり
学ぶんだ


まだまだ
これからだよ
人が来るまで
時間があるから
しっかり俺に
墜ちようね
っ
どうして…
犯されそうに
なってるのに…
ときめい
ちゃってるのよー!!


一目見たときから
彼女に惹かれる
予感があった
ふわ
ふわ
彼女が
上坂真(まこと)…
よく働くな
ふわ
元々日本人は
勤勉な者が
多い印象だが
いい人材を
転移できたな
うんうん


きれいな黒髪も
好ましいし――…
ここが
問題だったか
聞きかじった
異世界のシステムを
模倣しただけだったのは
よくなかったな
トン
いい
報告書だ
トン
担当は
――…
なるほど
あれは…


以上のように報告いたします。
担当 上坂真


彼女の存在は
俺をわくわく
させてくれた
好ましい
近づいて
みたい
彼女を


あぁっ
だめ…
俺のものにしたい
ほらここひくついてる
きれいなピンク色だ
俺の指はどう？
気持ちいいって言ってごらん


やっ
いえない…っ
いつの間にか全部脱がされて
殿下の肌が直接…
まだ頑張るの？頑張りすぎだよ
え
恥ずかしくて気持ちいいなんて言えないよ…
そこも可愛いけど…仕方ないな


なめ…っ!?
ひぁ
真のここ
舐めて
あげるから
見てて？
えっ
やだ
そんなトコ


いいから…
見てなよ
うそ…
うそでしょ…!?
ほら
体は嘘が
つけないな
蜜が
溢れてきた
おかしく…っ
おかしく
なっちゃう


指と舌で…
ひっ あ
ゼクッ
ゼクッ
私の中を…
トル…
はぁ…
ね
そろそろさ
真の可愛い声に
耐えるのも限界
あの格好いい
顔が…


ぐぐぐ
ちゅっ
俺のものになってほしい


真
俺は貴女が欲しい
俺の腕の中で啼いて？
っ
ナカに入るのを
許してほしい
私が…断れない
…って思ってます
……よね？
うん
……
ぎゅ…。
結構
俺のこと
好きだよね？
短い間で
見た限り
浮気は嫌です
生涯 貴女だけを
愛すると誓うよ
約束ですよ
針千本
飲むと誓おう
その代わり


のっかる
生涯
俺にたくさん
抱かれてくれ
●つづく●


ep.3
異世界で第三王子に計画的に娶られました
マクガイア王国の異世界転移
志波ひより
Hiyori Shiba
原作／直江あき
Aki Naoe




頭の中に…
モヤがかかる
夢の中にいる
みたい……
あ
の…
真(まこと)
ハッ
私の名前を呼ぶ
切実な声に――…
はあ


抗えない
――……
あっ
はっ
私
上坂(こうさか)真は
日本からここ
マクガイア王国
に異世界転移
呼ばれた理由は
この世界の男性と
結婚して
血筋を残すため
次の資料
もってきます
でも 仕事優先で
スルーしてしまっていた…
――…のだけど


マクガイア王国
第三王子
ライト殿下に
その仕事ぶりを
認められ
婚約しようか
僕と
突然の
プロポーズ
さらに


温厚で
人柄の良いと
評判だった
王子が
――…
実は
ほんのり
腹黒くて…
こんな強引
だったなんて――…
真
あ
俺 独占欲強いから
恋人と別れさせちゃうけど
許して？
…挿れるよ


ちゅ
ちゅ
あっ
あぁん
奥…
まで…っ
殿下のが
入ってくる
――…!!
あぁ
大きくて
苦し…っ
エッチなんて
久しぶり
だから…っ!!
っ


…きつ…っ
真
もしかして
乙女だった？
っ
おと…め？
処女じゃ
……ない
けどっ
ん
痛い…
苦しい…
んっ
っ


……すまない
貴女が
苦しいのに…
俺は…っ
はっ
気持ちよくて
…暴走しそう
なのを…抑えてる
…お…うじ
はっ
はっ
うん…
っ
貴女の痛みが
落ち着くまで
待つから


真の その
泣きそうな表情も
煽る材料に
しかならないな
…少し
話をしようか
……俺は真の
能力に惚れたけど
元々
日本人が好みだ
真っ直ぐな黒髪も
凛とした黒目も
礼儀正しさや
日本語の美しさも
……なんだろうな
俺の日本語の
発音は かなり
うまいだろう？
貴女の名前どか
…そう
ですね


俺が幼少時に
転移してきた日本人に
可愛がってもらって
日本語もそこで覚えた
そんなに…!?
あ
かれこれ
二十年は勉強
している
！
はは
可愛い…
その人の知恵と
説得のおかげで
王位継承争いに
巻き込まれずに
済んだんだ
やりたいことが
いくつもあって
王太子にはなりたく
なかったんだよね
バカのフリを
してるのも
そういう理由
あの人には
すごく
感謝してる


――…
そうだったんですね…
初恋ですか？
うーん二十は年上だし
…親戚？
ふっ
親戚ですか
笑ったな
真
やっと
えっ
あ
あ
痛く
……ない


むしろ…
気持ち
…いい…
王子…
真
王子じゃ
なくて
ライトって
呼べる？
あ
ライ
…ト…ッ
はぁ
うん
俺に集中して
いっぱい
イこうな


あっ
あ
ライ…ト
あっ
あ
イッちゃう
気持ち
いい…っ
いいよ


イけよ
真の可愛い顔
もっと見せて
…なんて表情で
言うの…
…俺のこと
好きになって
真のこと
もっと好きにさせて


私――…きっと
ライトを
好きになる
好きだ…
真
俺もそろそろ
イきそう…
なんだ
辛かったら
しがみついてて
いいから…
一緒に
イこう
真っ
あっ
あ
もっと
言って
好きだ


ぱちっ…
はぁ
はぁはぁ
はぁはぁ
ぽーっ…
……
ナカがライトのであつくて…
…ふわふわする…
ぱちん
ん？
好きだ…
あぁあ


ナカ…!?
ライトなに…
なんで中に
出したの!?
まだ抱き足りないし
これからも
飲むから大丈夫
ちゅ
ちゅ
…本当?
だきたりな…?
コンコン
あー平気だよ
避妊薬
飲んでるから
殿下
失礼します
え
ガチャリ
そろそろ
上坂嬢が
到着されます
学者役の
演者も打ち合わせ
済みで――…
ひとが…っ

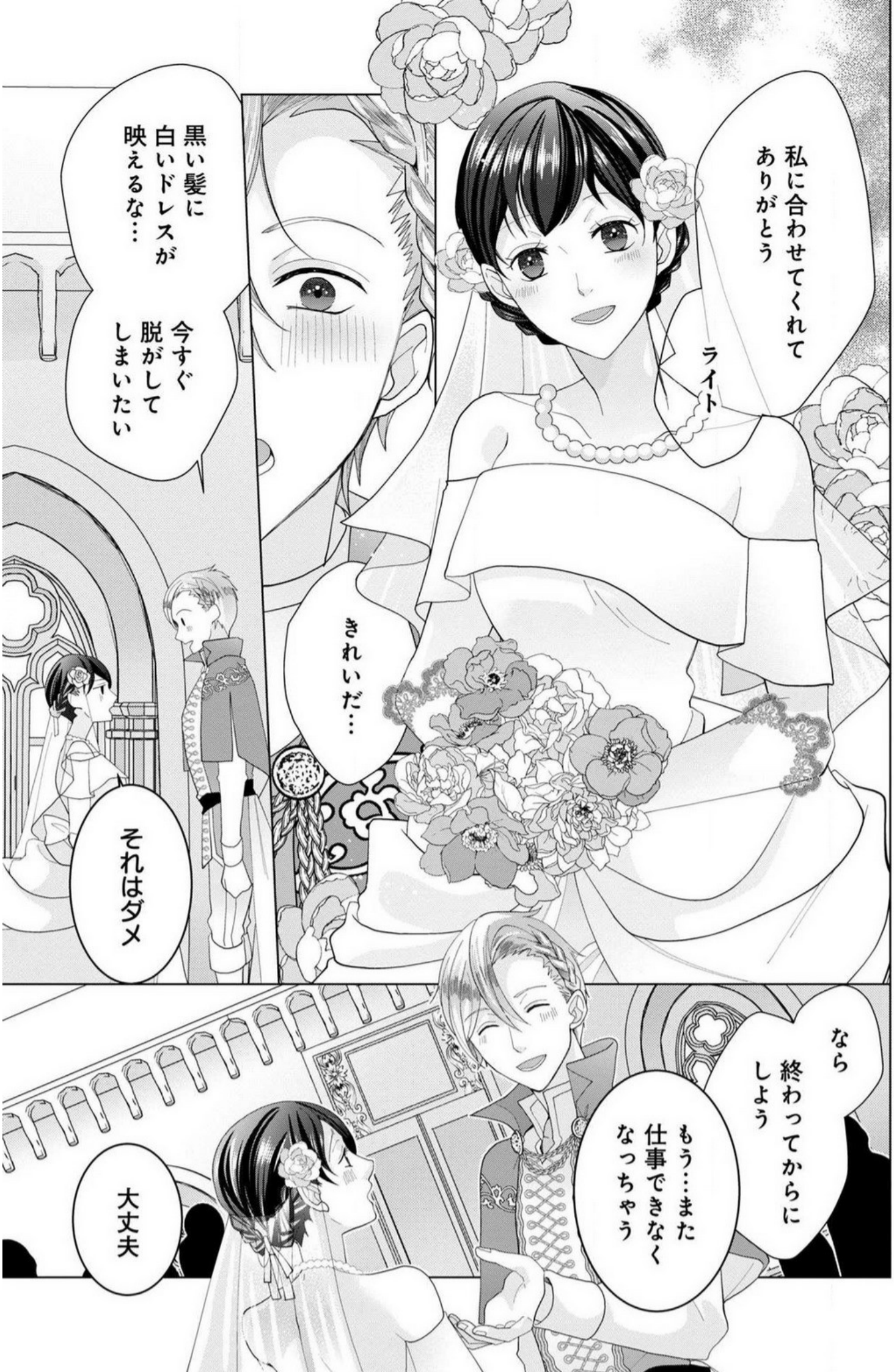

悪い
それ以上
入るな
取り込み中
だ
ガチャ
……
はーっ
上坂嬢の
到着を遅らせ
ますか…？
大丈夫
上坂嬢が
相手だからね
ちょっ
え
え
というわけで
演者はいらなく
なったし
上坂さんは
俺の妃に
なるから
スケジューリング
よろしくな
はい!?


それからは
ライトの手のひらで
踊るように
「婚約者」になり
妃教育が始まった
概ね順調――…
ひとつ気がかりなのは
毎日のように
抱き潰されている
せいで


すや
すや
ムニャ ムニャ
もぞもぞ…
え
…
もう…
朝…？
ライト…
仕事が
やだ
まだ抱き足り
ない…
ぎゅん♡
仕事が…
進まないこと…!!
カチャ…
休んでばっかりで
迷惑になってない
かしら…
腰いた…
おはよう…
ございます
ん？


おはよー
上坂く
君のおかげで
昨日は俺たちも
ゆーっくり休めたよ
え
殿下にはまた
ゆっくりしてもらって
え
感謝
やっと俺も
妻との時間が
とれたんだ
えっと
それは…
よかったです
ははは
ライトが次々に
事業を興すことで
側近たちは
多忙を極めて
いたらしい
うん
この計画は
このままで
良さそうだ…
そうだね
私たちは
変わらず
お互いに
仕事を
支え合っている
あとは
税率を…
――…
真


ポン
あ
仕事熱心なのは素晴らしいけど…
ベッドの上でも仕事ができる？
！
仕事以外ももちろん――…
…幸せだ
…どうかなあ
へーこれが真の国の結婚式か


私に合わせてくれて
ありがとう
ライト
黒い髪に
白いドレスが
映えるな…
今すぐ
脱がして
しまいたい
きれいだ…
それはダメ
なら
終わってからに
しよう
もう…また
仕事できなく
なっちゃう
大丈夫


休めばいいからね
マクガイア王国歴二五八年
第三王子ライト殿下が結婚
キャア…
妃の母国の様式で挙げられた式は
各王国でも真似られる程に流行
妃との時間を重要視した王子が勤務形態を見直し
週休二日という制度が国内に広まった
これにより国は。さらに発展し栄えたという
END